

今月は**美術館 丸かじり** という新聞記事の見出しではじまり、庭園から見る

【展示と一体の鮮やかさ】に目が留まりました。

その内容は、景観の素晴らしさが印象的で同館の施設は、ルーブル美術館の「ガラスのピラミッド」で知られる I・M・ペイが設計したもので、桃源郷を意識したという仕掛けが随所に施されており、コレクション同様に周囲の景観も見ごたえがある。

バスで片道1時間近くかかるなど交通の便は決してよくないが、足を運ぶだけの価値はある。との記事につられて 6月の初めに、滋賀県甲賀市のミホ・ミュージアムへ行ってきました。

JR石山駅から、1時間に一本しかでていない帝産バスに乗り込み約50分。

バス停で待っているときに並んでおられる方はほとんどが海外の方で、日本語が聞こえてくるのは、極わずか、私のように新聞で知って来られているのではなく、おそらくネットで調べて来られる方で、このような滋賀県の山中までと驚いた次第です。

出発するときは、満員で途中の車庫で立っている人は、別のバスに分乗して美術館へ。

約50分。田んぼあり、黄金色に輝く麦畑、変化にとんだ山の木々、下を見下ろすと川の底まで透き通った、いかにもひんやりとした空気が漂っていそうな感じの川。

思わず降りて手を浸したくなる。 いろいろの形の岩があり、と眺めているうちに目的地の美術館につきました。

山の景観をそのままに残すために、ガイドで説明のあったように。建物はほとんど地下に埋め込んだ形で建てられていました。

バスを降り、少し歩くとあちこちから鳥の鳴き声が聞こえ、ゆっくりとした上り坂も、小鳥が何処にと見回しているうちに、金属張りの近代的なトンネルが(4~500m) 抜けると放射線状に延びた金属でつりさげられた大きな橋が見え、すっぽりと山々に囲まれたなかに美術館がありました。

レセプション棟には、レストラン。美術館棟には、喫茶室がありました。

食材や調味料のほぼすべてが農薬や人為的な肥料を一切使わず、自然の堆肥のみで栽培する農法で栽培されたものを使用しているそうです。

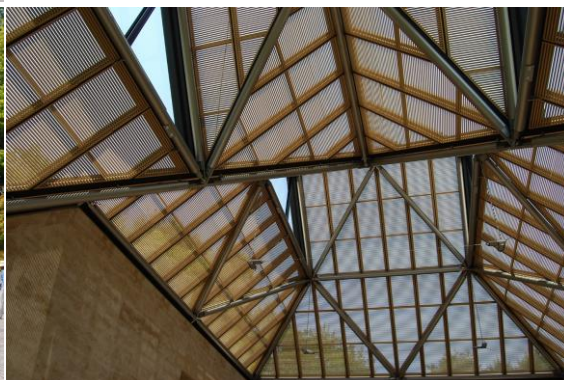
今回の主な展示は「和ガラスの美」で江戸時代のものがほとんど。

ほかの展示場は古代オリエント。シルクロードを旅するかのよう、エジプト、西アジア、ギリシャ、ローマ、南アジア、中国、ペルシャ、中央アジアなどの古代美術が展示されていました。

紀元前のもも含め、何千年も昔に手の込んだ金属製の首飾りや装飾品。そして器など現在の美術工芸品と勝るとも劣らないのではと考えさせられます。

時折言われる様に、何千年も昔、今よりもずーと発達した文明社会があり、何らかの気候的な変化。人類による戦争などで全滅し、また少しずつ現代のような社会になったのではと、全然知識のない私でさえ、そのようなことを考え、また腹式呼吸よろしく、頭の隅々、身体

の隅々までオゾンいっぱい空気、自然を満喫した一日でした。



滋賀県甲賀市のミホ・ミュージアムより

いい詩がありましたので一部紹介します。「**子は親の鏡**」 **ドロシー・ロー・ノルト**

けなされて育つと、子供は、人をけなすようになる。

とげとげした家庭で育つと、子供は、乱暴になる。

不安な気持ちで育てると、子供も不安になる。

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子供は、みじめな気持ちになる

子供を馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子供も人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子供は「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子供は、自信を持つようになる  
広い心で接すれば、キレル子にはならない  
褒めてあげれば、子供は、明るい子に育つ  
愛してあげれば、子供は、人を愛することを学ぶ  
認めてあげれば、子供は、自分が好きになる

という素敵な詩です。